

# きゅうり (ウリ科)

月	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月		
旬	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
作 型	(苗購入) ○ ———— ○ ———— ○ ———— 定植 本葉3~4枚 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin-left: 100px;">収 穫：6月下旬~9月下旬</div>																				
※自家育苗の場合：播種時期を4月上旬~下旬とし、育苗期間を40日前後																					

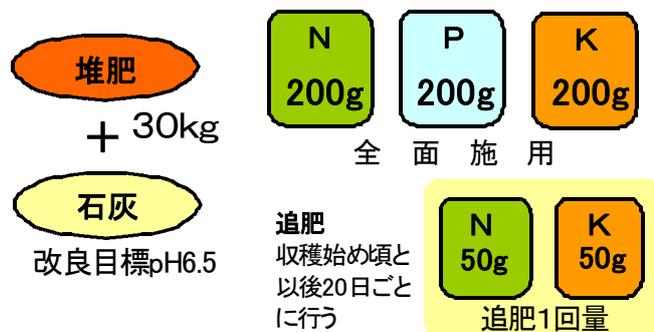
## 1 栽培管理

表1 主な品種

### ①畑の準備

- きゅうりは肥料の多少に敏感なので、基肥量は土壌中の残肥を考慮して多すぎないようにして、追肥で安定した生育を維持することが大切です。
- 栽植密度の決定は、作型や整枝技術によって異なりますが、いずれの場合でも茎葉下部まで光が十分当たるような状態にすることが大切です。
- ハウスでの半促成栽培や抑制栽培では、畦幅135cm、株間60~70cmを目安とします。
- 露地栽培では、畦幅240cm、株間60~70cmを目安として、支柱を立て条間135cmの二条植えとします。

品種名	葉の大小	結果習性	側枝の多少	低温肥大性	果色
アルファ節成	中	節成	やや多	中	濃緑
オーシャン	やや小	やや節成	中	やや弱	濃緑
オーシャン2	やや小	やや節成	中	やや強	濃緑



畑の準備(10㎡当たり)

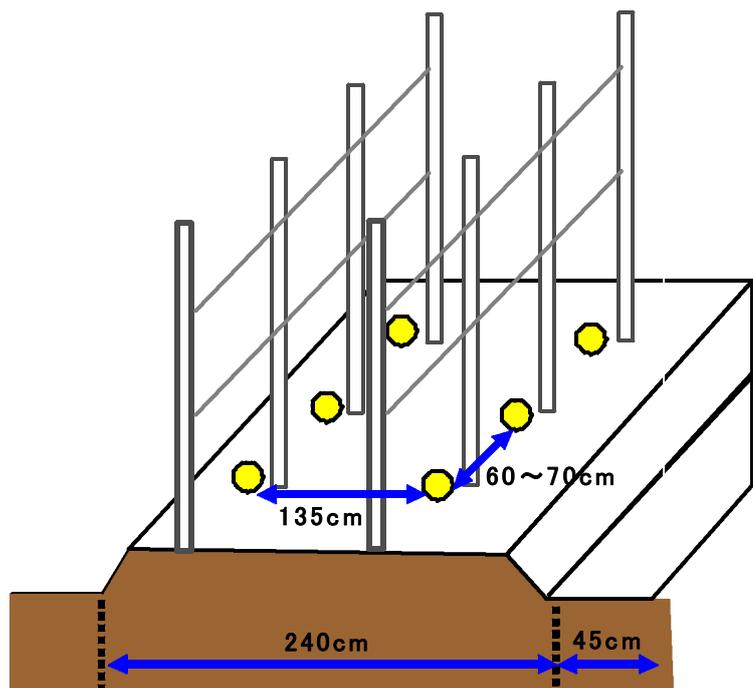
### ②定植

定植適期の苗の状態は本葉3~4枚のときです。定植前日に充分にかん水しておきましょう。

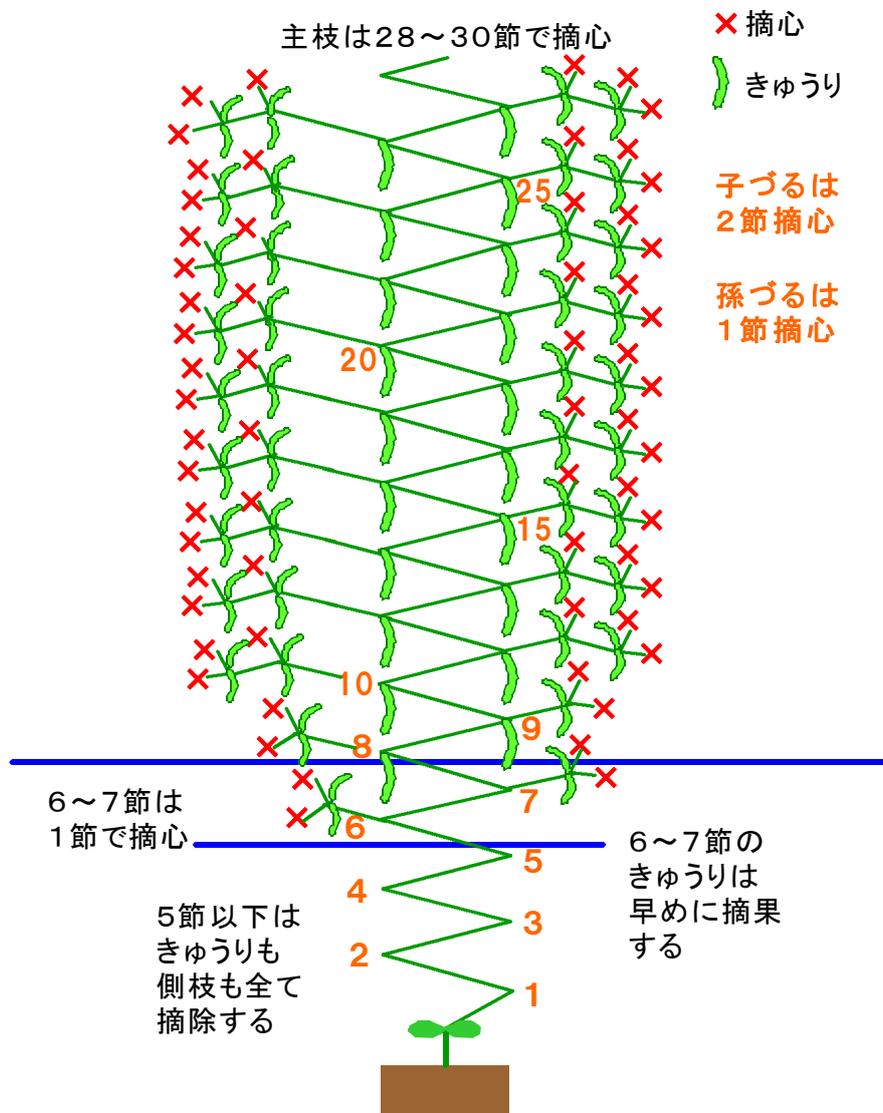
※定植の要領はトマト、ナスに準じます。

### ③管理

- 定植後きゅうりネットを張るまでは、夜間のトンネル被覆保温により初期生育を促します。
- 定植後1週間くらいで、芯の色が濃緑から淡く生き生きした色に変わり、活着の目安となります。



- ・整枝と摘芯は、親づる1本仕立（図参照）の他、親づる+子づる2本仕立（6～7節上から出た子づるを仕立てる）があります。
- ・生育適温は23～28℃で、30℃以上では葉の老化が始まり、果実の肥大も鈍ります。10℃以下では、生長点に雌花が群がります。
- ・きゅうりは果実の肥大が早く水の吸収量も多いので、水管理は大変重要です。
  - ◇水分が不足すると果実は曲り果、くず果が増え、側枝の発生や伸長が遅れます。
  - ◇茎葉には直接散水しない。ハウス内の湿度を高め、病害の発生を多くします。
- ・側枝の成り花が葉陰になると、落花や曲がり果の原因になるので、黄化した葉、病葉は早めに摘除します。葉が込合い、収穫の終わった主枝の葉は随時摘葉して子づる、孫づるへの光線透過をよくし、草勢の充実をはかります。1回の摘葉数は1株当たり2葉まで、摘葉しすぎると草勢が悪くなります。
- ・成り疲れ、肥料切れ等による曲り果、尻太り果などは早めに摘果して、草勢の維持と正常果の肥大を促します。早め早めの摘果は、順調な側枝発生を促し、良品生産率を高めます。



親づる1本仕立の整枝と摘心

## 2 収穫の目安

開花後10～15日くらいで収穫できます。果実が大きくなるほど栄養消費負担が増加し、その後の収量に影響するため、80～110g（20cm前後）に達したものを順次収穫します。